

# 第1章

---

## 本調査の概要

## 1. 本調査の概要

ヤングケアラーの実態や支援の状況を把握するため、下記のような対象に実態調査を行った。

目的	本調査は、児童・生徒の学校や家庭生活の中での悩みや困りごと等の生活実態、また学校教員および関係機関における、家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども(ヤングケアラー)への気づきや対応の実態を明らかにするとともに、支援施策等の検討を行うための基礎資料とする。
調査の種類	<p>①-1 児童・生徒調査(小学生・中学生): 市立小学校・中学校の小学5年生から中学3年生のすべての児童・生徒</p> <p>①-2 児童・生徒調査(高校生世代): 市内に在住するすべての高校生世代 (平成17年4月2日～平成20年4月1日生まれ)</p> <p>② 教員調査: 市立小学校・中学校の全教員</p> <p>③-1 関係機関調査(機関向け): 市内の子どもおよび支援や介護を要する人に関する機関</p> <p>③-2 関係機関調査(個人向け): 市内の子どもおよび支援や介護を要する人に関する機関に所属する個人</p> <p>④ 子ども・若者支援団体調査: 市内の子ども・若者支援団体</p>
調査方法	<p>①-1 児童・生徒調査(小学生・中学生): 各学校を通じて児童・生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童・生徒本人が学校配布のタブレットからWebアンケートフォームにアクセスし回答</p> <p>①-2 児童・生徒調査(高校生世代): 住民基本台帳から抽出した対象者に郵便で調査依頼文を送付し、高校生世代本人が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答。筆記で回答を希望する対象者のために別途紙媒体を準備</p> <p>② 教員調査: 各学校を通じて教員向けの調査依頼文を配布し、教員本人が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答</p> <p>③-1 関係機関調査(機関向け): 市内の関係機関へ調査依頼文を直接または郵送での配布、およびメール送付し、各機関代表者1名が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答</p> <p>③-2 関係機関調査(個人向け): 市内の関係機関へ調査依頼文を直接または郵送での配布、およびメール送付し、各機関の所属者本人が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答</p> <p>④子ども・若者支援団体調査: 市内の子ども・若者支援団体へ調査依頼文を直接または郵送での配布、およびメール送付し、各団体代表者1名が個人の端末からWebアンケートフォームにアクセスし回答</p>

調査項目	<p>①は国が令和2・3年度に行ったヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、実態調査委員会において検討を行い、本市独自項目の追加等を行った。</p> <p>②は新潟県南魚沼市(平成27年度)<sup>※1</sup>、神奈川県藤沢市(平成28年度)<sup>※2</sup>、東京都小平市(平成29年度)<sup>※3</sup>で実施された家族のケアをしている子どもに関する教員の意識調査および、東京都豊島区(令和4年度)<sup>※4</sup>で実施されたヤングケアラー実態調査の関係機関向け調査を参考としつつ、実態調査委員会において検討を行い、本市独自の項目の追加等を行った。</p> <p>③は東京都豊島区(令和4年度)で実施されたヤングケアラー実態調査の関係機関向け調査を参考としつつ、実態調査委員会において検討を行い、本市独自の項目の追加等を行った。</p> <p>④は東京都豊島区(令和4年度)で実施されたヤングケアラー実態調査の関係機関向け調査を参考としつつ、実態調査委員会において検討を行い、本市独自の項目の追加等を行った。</p>
------	--

※1 ※2 実施主体：一般社団法人日本ケアラー連盟ヤングケアラープロジェクト

※3 実施主体：白梅学園大学ヤングケアラー調査研究プロジェクト

※4 実施主体：東京都豊島区・豊島区教育委員会

## 2. 調査の実施

本調査は、学識経験者と委託事業者の助言のもと、実態調査委員会における検討を踏まえ実施した。実態調査委員会は府中市ヤングケアラープロジェクトモデル事業の実施主体(一般社団法人ケアラーワークスおよび府中市子ども家庭部子ども家庭支援課)、および高齢・介護・障害分野担当課より委員が参集し、設置・運営した。実態調査委員会は4回実施した。

【実施主体】一般社団法人ケアラーワークス・府中市

【実態調査に関する事務局】一般社団法人ケアラーワークス

【児童・生徒調査、教員調査、関係機関調査の委託】日本コンサルタントシステム株式会社(JCS)

委託内容：アンケートフォームの作成・回答結果について集計・原因分析など

### 【府中市ヤングケアラー実態調査委員会】

(敬称略・順不同)

氏名	役職	所属等
伊藤 順子	相談担当主査	子ども家庭部 子ども家庭支援課
濱田 昌也	教育指導担当主幹	市教育委員会 教育部指導室
南學 進	室長補佐	市教育委員会 教育部指導室
長岡 志保	主査	福祉保健部 高齢者支援課
小島 匡弘	介護保険制度担当主査	福祉保健部 介護保険課
大田 晶子	サービス支援担当(精神・発達)主査	福祉保健部 障害者福祉課
田中 悠美子	代表理事・ヤングケアラーコーディネーター	一般社団法人ケアラーワークス

## 【府中市ヤングケアラー実態調査委員会 事務局】

(敬称略・順不同)

氏名	所属等
島村 真由美	子ども家庭部 子ども家庭支援課
手島 健太	子ども家庭部 子ども家庭支援課
向山 彩音	子ども家庭部 子ども家庭支援課
松崎 実穂	一般社団法人ケアラーワークス
横川 あゆみ	一般社団法人ケアラーワークス

### 3. 集計・分析に関する留意事項

- 回答結果の割合(%)は有効サンプル数に対し各回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ)であっても合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答(2つ以上の選択肢を選択できる質問)の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対しそれぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。
- 図表内の「n=」はその設問についての集計対象件数を示している。母集団のデータの数を示す場合は「N=」と表記する。
- 集計サンプル数が少ない属性項目については1サンプルあたりの重みが大きく比率が変動しやすいため、結果の利用には注意を要する。
- 自由記述による回答の集計・分析にあたっては、個人の特定につながる情報(人名、固有名詞等)をすべて削除したうえで図表の作成および回答例の掲載を行っている。
- 「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを示す。